

(別紙)

開催要領

オンラインシンポジウム「2050年、食料リスクのない豊かな社会を目指して」の開催

1. 趣旨

「ムーンショット型農林水産研究開発事業」における研究課題「サイバーフィジカルシステムを利用した作物強靱化による食料リスクゼロの実現」では、野生植物などが持つ生物機能をフル活用し環境適応力の高い作物を迅速かつ自在に開発できる新技術「作物サイバー強靱化」を開発することにより、食料リスクを解決し、持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に貢献することを目標として、研究を開始しました。

今回、本課題の背景となる問題を広く共有し、食料リスクのない豊かな社会を目指すための解決策を提示することを目的として、シンポジウムを開催します。

2. 開催日時・方法

令和3年10月22日(金)14:00～17:55

オンライン開催 (Zoom ウェビナー、参加登録いただいた方へご案内をお送りいたします。)

3. プログラム

- 14:00～14:05 **【開会の挨拶】**
・千葉一裕プログラムディレクター (東京農工大学学長)
- 14:05～14:10 **【来賓挨拶】**
・青山豊久 (農林水産技術会議事務局事務局長)
- 14:10～14:20 **【挨拶】**
・久間和生 (農研機構理事長)
・和田洋 (筑波大学副学長)
- 14:20～16:10 **【特別講演】**

- ・藤森真一郎（京都大学/国立環境研究所）
「気候変動と食糧安全保障の関係について」
- ・八木信行（東京大学/FAO 世界農業遺産科学アドバイザー
合委員）
「食料供給の拡大と地球環境保全の両立に向けて」
- ・竹下達夫（パイオニアエコサイエンス株式会社/サナテック
シード株式会社）
「近未来の農業経営と種苗業並びにアグリビジネス」

16:10～16:20 休憩

16:20～17:30 【講演（プロジェクトの内容）】

- ・大澤良プロジェクトマネージャー（筑波大学）
「サイバーフィジカルシステムを利用した作物強韌化による
食料リスクゼロの実現」
- ・藤原徹（東京大学）
「新しい植物のストレス耐性」
- ・安井康夫（京都大学）
「未利用・低利用植物の再栽培化に向けて」
- ・宇賀優作（農研機構）
「作物強韌化を支えるデジタル作物デザイン技術の開発をめ
ざして」

17:30～17:50 【学会からの応援メッセージ】

国内学会代表 各位

- ・日本育種学会（副会長：加藤鎌司）
- ・日本作物学会（会長：山岸順子）
- ・園芸学会（副会長：田尾龍太郎）
- ・日本土壌肥料学会（会長：妹尾啓史）
- ・日本植物生理学会（会長：前島正義）
- ・日本植物バイオテクノロジー学会（会長：小泉望）

17:50～17:55 【閉会の挨拶】

- ・大澤良プロジェクトマネージャー

（当日の状況によって発表内容に一部変更が生じる場合もございます。あらかじめご了承下さい。）

5. 主催者

ムーンショット型農林水産研究開発事業「作物サイバー強靱化コンソーシアム」

6. 共催者

筑波大学

生物系特定産業技術研究支援センター

7. 参加費:無料

8. 参加申し込み方法

参加登録は、以下の URL からお願いいたします。

<https://kikaku.nias.affrc.go.jp/cgi-bin/meeting/form.cgi?mid=HNLNJ0E9>

※申し込みには、ログインが必要です。初めての方は新規登録してください。申込内容の変更にも登録した ID とパスワードが必要です。

【申し込み締切】2021 年(令和 3 年)10 月 14 日(木)17:00

【定員】1,000 名まで(締切前でも、定員になり次第申し込みを締め切ります)

9. 事務局

作物サイバー強靱化コンソーシアム シンポジウム事務局

ms_501cps(at)un.tsukuba.ac.jp *(at)は”@”に変更してください